

組合員の声と、取組の成果を共有 活発な意見が飛び交った分会代表者会議

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
電話 096-354-1150
発行者 松本慎剛
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

- 2月17日 大分署新庁舎披露式
- 2月20日 組織化対策会議 (WEB)
- 2月27日 全国組織財政確立委員会

1月9日、森林労連会館において、分会代表者会議が開催され、全分会の代表者が出席し、組織定員問題や安全対策など、深く議論されました。



19分会の代表者が一堂に

1月9日、全分会の代表者が参加する「分会代表者会議」が開催され、執行部から当面する情勢や今後の取組について提起が行われました。その後の討議では、各分会から率直な意見や、現場の実情を踏まえた発言が相次ぎ、職場段階の課題と取組の成果を共有する有意義な場となりました。

冒頭、加藤地本執行委員長の挨拶では、組織を取り巻く情勢について、政権の政策動向に注視しながら、いかに現場の声を政策に反映させていくか改めて触れられました。

また、執行部から、2026春闘に向けた連合・公務労協の方針、公務員連絡会を通じた賃金・労働条件改善の取組について情報があり、実質賃金の低下が続く中、真に生活改善につながる賃上げや、期末・勤勉手当の引き上げなどを求め、引き続き取組を進めていく必要性について提起されました。

組織・定員問題については、現場管理機能の確立が大きな課題として報告され、業務量や責任の度合いが増加する一方で、定員削減や級下の切下げが

進む状況に対し、現場の負担増を懸念する声が多く、分会から意見が出されました。そういった中で、佐賀分会から、「分会として、これまで継続して治山総括ポストの設置を求めてきた経過があり、今回ようやく設置されることに喜びを感じている。長年の取組が実を結んだことに感謝している」との発言があり、

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

「オルグ等を通じて、多くの組合員より様々な課題が報告されており、そのどれもが切実なものである。一気に解決することは難しいが、少しずつ前に進めていくため、本日は求めていく」と挨拶があり、交渉に入りました。

交渉事項としては、①2026年度事業運営について、②要員及び現場管理機能の確保について、③労働安全の確保について、④赴任旅費及び山上等作業手当の拡充等について交渉を行

いきました。具体的な内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。

冒頭、加藤地本委員長から「オルグ等を通じて、多くの組合員より様々な課題が報告されており、そのどれもが切実なものである。一気に解決することは難しいが、少しずつ前に進めていくため、本日は求めていく」と挨拶があり、交渉に入りました。

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。

交渉を終了しました。

冒頭、加藤地本執行委員長の挨拶では、組織を取り巻く情勢について、政権の政策動向に注視しながら、いかに現場の声を政策に反映させていくか改めて触れられました。

また、執行部から、2026春闘に向けた連合・公務労協の方針、公務員連絡会を通じた賃金・労働条件改善の取組について情報があり、実質賃金の低下が続く中、真に生活改善につながる賃上げや、期末・勤勉手当の引き上げなどを求め、引き続き取組を進めていく必要性について提起されました。

組織・定員問題については、現場管理機能の確立が大きな課題として報告され、業務量や責任の度合いが増加する一方で、定員削減や級下の切下げが

進む状況に対し、現場の負担増を懸念する声が多く、分会から意見が出されました。そういった中で、佐賀分会から、「分会として、これまで継続して治山総括ポストの設置を求めてきた経過があり、今回ようやく設置されることに喜びを感じている。長年の取組が実を結んだことに感謝している」との発言があり、

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。

冒頭、加藤地本執行委員長の挨拶では、組織を取り巻く情勢について、政権の政策動向に注視しながら、いかに現場の声を政策に反映させていくか改めて触れられました。

また、執行部から、2026春闘に向けた連合・公務労協の方針、公務員連絡会を通じた賃金・労働条件改善の取組について情報があり、実質賃金の低下が続く中、真に生活改善につながる賃上げや、期末・勤勉手当の引き上げなどを求め、引き続き取組を進めていく必要性について提起されました。

組織・定員問題については、現場管理機能の確立が大きな課題として報告され、業務量や責任の度合いが増加する一方で、定員削減や級下の切下げが

進む状況に対し、現場の負担増を懸念する声が多く、分会から意見が出されました。そういった中で、佐賀分会から、「分会として、これまで継続して治山総括ポストの設置を求めてきた経過があり、今回ようやく設置されることに喜びを感じている。長年の取組が実を結んだことに感謝している」との発言があり、

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。



宿舎事情を伝える宮南分会：沖田

「2025・12・25」地本団体交渉

冒頭、加藤地本委員長から「オルグ等を通じて、多くの組合員より様々な課題が報告されており、そのどれもが切実なものである。一気に解決することは難しいが、少しずつ前に進めていくため、本日は求めていく」と挨拶があり、交渉に入りました。

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

冒頭、加藤地本執行委員長の挨拶では、組織を取り巻く情勢について、政権の政策動向に注視しながら、いかに現場の声を政策に反映させていくか改めて触れられました。

また、執行部から、2026春闘に向けた連合・公務労協の方針、公務員連絡会を通じた賃金・労働条件改善の取組について情報があり、実質賃金の低下が続く中、真に生活改善につながる賃上げや、期末・勤勉手当の引き上げなどを求め、引き続き取組を進めていく必要性について提起されました。

組織・定員問題については、現場管理機能の確立が大きな課題として報告され、業務量や責任の度合いが増加する一方で、定員削減や級下の切下げが

進む状況に対し、現場の負担増を懸念する声が多く、分会から意見が出されました。そういった中で、佐賀分会から、「分会として、これまで継続して治山総括ポストの設置を求めてきた経過があり、今回ようやく設置されることに喜びを感じている。長年の取組が実を結んだことに感謝している」との発言があり、

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。

匠の腕シズ

「諫早の映えるバス停」

(撮影者 今井 隆：長崎分会)



「匠の一言」

晴れた日は、青空・雲仙・有明海がきれいに。バス停は他にもイチゴなども。



今回の衆院選は、現与党の圧勝という結果に終わりましたが、民意が示された以上、その重みは受け止める必要がある。ただ、選挙戦を振り返ると、国の行方を左右する大切な選挙であったにもかかわらず、有権者は十分な選択肢を前にしていただろうか▼野党の準備不足を突いた解散は、日本の政治では「勝負に強い政治」と評価されがちだ。しかし、勝負に強い政治家であることと、民主主義に誠実であることは必ずしも一致しない▼他党が掲げる政策と比較し、納得した上で一票を投じられた人がどれだけのいたろうか。働く者の声や暮らしの現実が選択肢として十分に示された選挙だったといえるのだろうか▼行き過ぎた国策に舵をきられた場合、民意が届かなくなった。しかし働く者の声は途切れさせてはいけない。次の選挙に向け、やるべきことが必ずある。(松本)

冒頭、加藤地本委員長から「オルグ等を通じて、多くの組合員より様々な課題が報告されており、そのどれもが切実なものである。一気に解決することは難しいが、少しずつ前に進めていくため、本日は求めていく」と挨拶があり、交渉に入りました。

具体的内容として、「来年度事業予定の検討状況」「業務量増加による署担当者への配慮」「林道予算の適切な確保」「将来要員規模に向けた要員の配置」「若手職員の昇格スピードを上げるため、林野庁体系に沿った在職期間の整備」「2G森林事務所への配置」「現場管理機能の確保」「労働災害の未然防止に向けた対策」「離島への異動の際、自家用車運搬費用を完全対象とすること」「山上手当の適用要件を拡充すること」

と等強く求めました。当局からは、1. 2026年度事業計画については、資源量及び実行体制等を考慮しながら、林野庁と調整を進めてきた。本

度度と同程度の指示量と見込んでおり、引き続き職員負担軽減を図りながら実行していきたい。2. 要員及び現場管理機能の確保については、一般会計化以前と比べ、非常に厳しい状況だと認識している。空席ポストの解消を図るため、新規採用者や選考採用の確保に努めていきたい。また、若手職員の昇格要件の緩和・見直しについては林野庁へ進達する。3. 労働安全の確保については、当局として危惧すべき状況と認識しており、基本事項や法令遵守の徹底について、当局のできる最大限のサポートで災害防止に取り組んでいく。4. 自家用車の運搬費用、山上等作業手当については、人事院規則等により定められて

交渉を終了しました。

口出し無用

若手の未来は若手で決める 鹿児島ブロック青女が今年も動く



大人抜き、だから本音の分散会

主催による鹿児島ブロック交流集いが開催されました。鹿児島分会、北薩分会、大隅分会の各青年女性委員会から11名が集結し、分散会およびスポーツ交流としてバレーボール大会を開催しました。

分散会では、「働きやすくて楽しく仕事をするために、青年女性委員会としてどのような取り組みが必要か」「同世代の組合未加入者や脱退者がいる中で、どのような活動・取り組みが必要か」を議題とし、日頃感じている不安や不満、労働組合についてなど、さまざまな内容について議論や意見交換を行いました。その中で、「ハラスメントの線引きが難しい」「上司とうまくコミュニケーションがとれない」「未加入者から、組合費が高く加入が厳しい」という声があつた。などの意見も出されました。

日頃の思いを声にして発言し、共有し合いながら議論することによって皆さんは、普段「森林・林業基本計画」を意識して仕事をしているでしょうか。

「森林・林業基本計画」は、森林・林業・木材関連産業に関する政策の基本方向を明らかにするもので、おおむね5年ごとに改定されており、直近では令和3年6月に改定されています。全体で43ページにも及び、すべてを読むのは大変ですが、林野庁のホームページにポイントが掲載されており、新たな計画として、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」が掲げられています。

森林管理局・署には、総務系や業務系、治山・土系系などさまざまな担当がありますが、林業のプロ集団として、「森林・林業基本計画」をまだ見たことがない方は、一度目を通してみてはいかがでしょうか。

(局分会 平松通信員)



現場の声を池田会長へ届ける

要請して終わりにしない、森林・林業基本計画

「計画は現場で生きる」

熊本地域森林労連(局分会)執行委員長の後藤、書記長の平松は、11月28日、熊本県庁議会棟会議室において、熊本県森林・林業活性化促進議員連盟の池田和貴会長に対し、「森林・林業基本計画」の推進に係る要請行動を実施しました。

要請内容は、①「森林・林業基本計画」に掲げる施策の具体化を図るために必要な予算の確保、②森林資源の循環利用の確保、③森林・林業基本計画の推進に係る要請行動を実施しました。

これに対し池田会長は、「松枯れ被害が深刻化していることや、夏場の作業が過酷であることなどから人手不足を招いている厳しい現実を認識している。今後とも協力し、改善に向けて努力していきたい」との回答がありました。

立に係る主伐後の確実な再造林に向けた公的補助の拡充、③「物流2024問題」に係る地域材の安定供給体制の確立、④林業労働者や外国人材の育成・確保および処遇改善等について要請しました。特に予算の確保については、近年、山地災害や松枯れ被害等により、森林保全費用が増大していることを説明しました。

森林管理局・署には、総務系や業務系、治山・土系系などさまざまな担当がありますが、林業のプロ集団として、「森林・林業基本計画」をまだ見たことがない方は、一度目を通してみてはいかがでしょうか。

(局分会 平松通信員)

「ともに進める」九州地方の森林・林業 労使合同で森林労連単産交流学習会



司会を務める歌野書記次長

2025年12月5日、九州森林労連会館において、2025年度九州地方森林労連単産交流学習会が開催され、直加盟民林労組代表4名、会社代表3名、林野労組から地本執行部7名が出席しました。

本取組は、森林労連と会社代表者が合同で学習会を行ったのち、局事業担当部との会見を実施し、国有林野事業の課題解決を図るものです。

冒頭、加藤九州森林労連執行委員長からは、「森林・林業を取り巻く情勢は、森林環境譲与税の見直しや花粉症対策などにより国民の関心が高まっている。このため森林労連としては、労働条件に限らず、森林・林業全体の発展を目指すことが求められている。他方で、一貫作業システム工程の見直しなど、求めてきたものが実現している面もある。

本ブロック集いは毎年継続して開催しており、各分会の持ち回りで実施しています。会場の確保や資料の準備など大変なこともありますが、「集まる場の確保」は青年女性委員会の組合活動の中で非常に大切なことだと感じています。集まることから、新たな絆も生まれることから、今後も継続して実施していきます。

(北薩分会 中村(終)通信員)



全員主役、全員運営

あの人とあの人

「スポーティーな男」

川畑 地歩さん(大隅分会)

今回は大隅分会から川畑地歩さんを紹介いたします。

川畑さんは、鹿児島県久根市出身の24歳で、令和2年度に西都児湯森林管理署に採用され、管理業務を3年、その後、2年間森林技術支援センターの勤務を経て、今年度の4月から大隅森林管理署の販売担当として活躍しています。淡々と静かに業務をこなしながらも、持ち前のコミュニケーション能力と柔軟な姿勢で、業務者と調整しながら、業務に励んでいます。

そんな川畑さんは、若手職員にインドア派の趣味の方が多い当署の中では、珍しくスポーツ好きのバリバリのアウトドア派の人間です。自身で週3回バドミントンを行うだけでなく、甘いマスクと巧みな話術で、どんどん引き込み、最終的には若手・中堅職員ほぼ全員を引き連れ、バドミントンを行うなど、署内のスポーツ人口を増加させています。

この他、ソフトボール大会の練習等でも、中心となつて動き、署全体で実施できるよううに声掛けをしていくなど、スポーツに掛ける熱が熱い男です。

最近では、遠方からの通勤となり、署の職員でスポーツを実施するという機会は減ってきていますが、組合職員の健康や交流のためにも、引き続き、アグレッシブに行動していただき、活躍してほしいです。

(山口通信員・大隅分会)

現場段階では依然として多くの課題が山積している。これらを有利に解決するためには、労組と経営者が一体となつて取り組んでいく必要がある。本日の会見では、何か一つでも得るものがあり、今後の森林労連運動に反映できるよう、内容のある学習会としたいとの挨拶がありました。

学習会では、九州森林管理局の池田計画保全部長より「林業労働安全対策」と題し、労働災害の分析結果を踏まえた具体的



池田計画保全部長の講演



民林労組が会見へ挑む

対策や、特定技能制度の概要等について講演がありました。

その後の局会見では、民林労組を中心に、①シカネットの補修・修繕予算の確保と請負事業による発注、下刈作業期間の拡大。②燃料等の物価高騰を考慮した積算。③コンテナ苗の作業効率向上と安定的な苗木供給。④立木販売箇所の枝条整理、造林事業の作業効率化と従事者の負担軽減。⑤林道沿いの危険木等の処理予算、維持管理に使用する骨材等の予算確保。⑥安全

最後に、加藤委員長より、「本日は、それぞれの立場から現場の声を届けることができ、本学習会の意義を再確認することができた」との総括があり、今後取り組むべき課題をあらためて確認し、全日程を終了しました。